

# 日韓トンネル通信

**編集/発行****特定非営利活動法人  
日韓トンネル研究会**事務局：東京都千代田区飯田橋4-1-11  
〒102-0072 信濃ビル6階  
TEL 03-3265-8813 FAX 03-3237-1012  
E-mail office@jk-tunnel.or.jp九州支部：福岡市南区老司3-5-28-605  
〒811-1346  
TEL 092-556-7110  
☎0120-09-2188

## (報告)第1回経済効果勉強会が開かれました。

去る3月16日(土)、千代田区飯田橋の当会本部で第1回経済効果勉強会を開催し、日韓トンネルの物流効果を検討した。

日韓トンネルが日本と韓国の既存の貨物輸送に及ぼす影響を推定するため、トンネルを通過する旅客・貨物・カートレインなどの列車本数を想定し、輸送力を概算した。また東京、名古屋、大阪、広島、福岡の各貨物ターミナルから日韓トンネルを経由して釜山ターミナルにコンテナを運ぶ際の所要時間や費用などを推算した。

日韓トンネルは物流を主体とし、そこに車と人の流れが載る性質を持つと考えられる。物流では貨物を飛行機よりも大量に安く、船よりも早く送ることができる効率的な輸送手段となると考えられる。

## (報告)幹事会が開かれました。

去る3月16日(土)、千代田区飯田橋の当会本部で幹事会が開かれた。2月に韓国のパク・クネ(朴槿恵)大統領が就任したことを受け、両首脳会談が実現した際に日韓トンネルが議題の一つに載るための方策を話し合った。

技術面ではトンネル内の湧水、止水、排水の現況を視察するための候補地を検討し、JR横

須賀線、関門鉄道トンネル、東京湾横断道路などが挙げられた。

## (訃報)当会顧問のユン・セウォン(尹世元)博士がご逝去されました。謹んでお知らせ致します。

当会顧問のユン・セウォン(尹世元)博士が去る3月16日逝去した。享年90歳。



故ユン・セウォン博士

博士は韓国の京畿道に生まれ、ソウル大の物理学科と大学院を卒業し、大韓物理学会会長、ソウル大学教授、慶熙大学副総長などを歴任し、大韓民国学術院会員でも

あった。韓国では原子力研究の父と呼ばれた。

博士は1986年にソウルに日韓トンネルの研究チームをつくり、1988年には日韓トンネルの韓国側地域のコジェ(巨濟)島で地質調査に着手するなど、日韓トンネルの研究推進に力を注いだ。

## (報告)鉄道建設調査会で日韓トンネルの講演をしました。

去る3月19日(火)、東京都千代田区平川町のホテルルポール麹町で日韓トンネルの講演を行った。主催は鉄道建設調査会で、当会の野澤太三会長が「日韓トンネルの構想と実現

への展望」をテーマに約1時間講演し、鉄道施設を建設・管理する技術者ら約70名が聴講した。

### **(報告)幹事会が開かれました。**

去る5月11日(土)、千代田区飯田橋の当会本部で幹事会が開かれた。平成24年度活動報告と収支決算、平成25年度事業計画と予算案、役員改選案などを審議した。また停滞気味の日韓関係を改善する、2010年に両国の学者らが創り上げた「日韓新時代のための提言、アジェンダ21」を原点に置き、そこに立ち返ることを確認した。

## **総会報告**

### **(報告)第10回通常総会が行われました。**

第10回通常総会が6月5日(水)、ホテルアルカディア市ヶ谷私学会館で行われた。冒頭の挨拶のなかで野澤会長が次の4点について語った。

#### **1. 昨今の困難な日韓関係**

日韓関係がこの何年か非常に悪くなり憂うべき状況が現実になっています。しかし市場経済や民主主義という価値観を共有する日本と韓国は、非常に重要な二国間関係であると認識しています。

お互いに知恵を絞って過去を十分に見据えながらも、将来どうするのかという未来志向の考え方を入れて事態を打開することが大事ではないかと思います。

#### **2. 原点に戻ろう**

迷ったときは原点に戻って出直すことが大事です。その原点は「日韓新時代のための



野澤太三会長

提言、アジェンダ21」とみえています。アジェンダ21は、日韓併合100年目にあたる2010年をひとつの節目として日韓両国が公式な報告書として公表しました。このなかに日韓トン

ネルの推進が21項目中の1項目として取り上げられています。私どもはアジェンダ21の方向に沿って日韓トンネルをどのように具体化するかを多くの方々に理解して戴こうと思っています。

#### **3. 昨年度(平成24年度)の活動**

昨年は、韓国の国会議員OBや財界人らが形成する韓日協力委員会で日韓トンネルの講演をしました。また日本では参議院議員OB並びに現職の議員で構成される参議院協会の講演会で日韓トンネルの講演を行いました。講演内容は冊子に収録されており、記録として残るだけではなく、今後の日韓関係を推進するひとつの材料となります。

#### **4. 日韓トンネルは何を運ぶのか?**

単にヒトとモノだけではなく、日韓トンネルは両国の国民の幸福を運ぶものです。GNPやGDPの増大だけではなく、両国国民の活動性や将来の幸せを増すためのものです。平和トンネルとして今後も取り組んで行きたいと思えます。

#### **◇来賓挨拶**

議事に先立つ祝電披露では、韓国釜山市の社団法人韓日トンネル研究会から「昨年の国際的な様々な困難な状況下にあって韓日トンネル建設の意思をより公にすることが、両国の発展に大きな影響を与える」というメッセージが読み上げられた。



第10回通常総会

### 今村雅弘 衆議院議員の挨拶

今回の総会で当会の顧問に就任した今村雅弘議員（佐賀）は、野澤会長から「国鉄出身の同志で日韓トンネルの日本側の出入り口となる佐賀県の唐津周辺を担当される議員」と紹介され、以下のように挨拶した。



今村雅弘 当会顧問  
衆議院議員

◇野澤会長を筆頭に皆様方が日韓トンネルの実現に向けてご努力されていることに心から敬意を表し感謝申し上げます。国土強靱化で災害に強いしなやかな国造りを進めるうえでも、近隣諸国との友好のためにも、日韓トンネルはいよいよ大切になり、大きく動き出さなければならないと思います。

九州国会議員の会というものが、九州でのプロジェクトを進めてきました。昨今で

はインターナショナル リニア コライダーという世界的な研究施設を九州に誘致するために力を合わせています。現在は衛藤征四郎先生が会長で、私が幹事長、谷川弥一先生が事務局長を務めています。日韓トンネルを進めて行くうえでお役に立つのではないかと考えています。

技術面や資金面などは、やる気さえあれば十分に解決できます。あとはどのように大きなレールに乗せていくかです。安部総理も非常に興味を持っておりますので、第3の成長戦略として位置づけ進めていきたいと思えます。

### 伊藤直彦 日本物流団体連合会会長の挨拶

同日行われた安部総理の講話「第3の矢、日本の成長」に出席後、総会に駆けつけた伊藤直彦氏は以下のように挨拶した。

◇私は国鉄から分離したジェイアール貨物（JR貨物）の社長や会長を務めてきました。

数年前に野澤先生から「日韓トンネルをやっている。そのトンネルは人流はもちろんだが物流が中心になるかも知れない。伊藤君も一緒に勉強しないかね」と言われたことを昨日のように思い出します。



伊藤直彦  
日本物流団体連合会会長

JR 貨物では国内の貨物を博多まで鉄道で運び、博多港から釜山港まで船で運んで荷揚げし、また鉄道で運ぶ所謂レール&シー&レールを行っています。

トラックや鉄道を含めた日本の物流のマーケットは 23 兆円に達します。一方、人の流れは鉄道、バス、飛行機、船などあらゆるものを入れて 13 兆円に満たないのです。これは意外に知られていないことです。

物流は経済と生活そのものです。いくらインターネットの時代でもテレビ画面からモノが飛び出すなんていうことは絶対にありません。モノは必ず運ばなければならないからです。

青函トンネルでは貨物の 75% に対し、旅客は 25% しか使っていません。貨物は北海道から青函トンネルを通過して東京や大阪など皆さんの生活の場まで運ばれて来るのです。

日韓トンネルは物流だけではないですが、流通機構が良くなれば日韓関係を含め生活も良くなります。

最後に、先ほどの安倍総理が講演で「最初からできないと思ったらできないのですよ。皆さん。できると言ったらできるのです」という力強い言葉をお伝えします。

## 戸塚進也 元衆議院・参議院議員の挨拶

韓国、中国、北朝鮮に多くの知人を持つ戸塚進也元衆議員・参議院議員は、野澤会長から



戸塚進也  
元衆議院・参議院議員

「昨年 6 月に韓国において韓日協力委員会で講演をしたきっかけを作って下さった先生です」と紹介され、以下のように挨拶した。

◇私は 52 歳まで 19 年間国会に席を置き、日韓議員連盟の仕事に携わったご縁で公益財団法人の日韓文化交流基金を作り、現在その理事を務めています。

昨年、韓国の政界だけでなく、財界、首相経験者なども入っている韓日協力委員会で野澤先生にご講演いただきました。その結果「野澤先生の専門的な新しい知識、考え方など含め大変良かった」と高い評価を頂きうれしく思いました。

韓国には韓日親善協会のような友好的な集まりもあるので、これからも野澤先生や事務局には何度も行っていただかなくてはなりません。その資金的な裏付けのためにも政府から本格的な資金が出てくるまでの間は JR 関係の方や建設業協会などの支援で日韓トンネル研究会を拡大できればと期待します。

私は静岡県サイクリング協会の会長を務めて 40 年になりますが、ひとつの夢として自転車で東京から韓国、北朝鮮を通過して北京まで行くサイクリング大会を計画しています。2001 年には日韓の間で実行し、中国国内でも走り、残る北朝鮮にも何度か訪朝し日朝国交が正常化したら実行する約束をしています。しかしまだ日朝関係は簡単ではないので、私は競輪

選手3千数百人の中から自らの後継者を立てました。

日韓トンネル研究会も30代、40代の方々が参加し、野澤先生の気持ちを受け継いで実現する方向に行けばと思います。私は日韓トンネルは必ず実現できると確信しています。

## ◇議 事

各事業活動報告として下記の項目について事業の報告があった。

### 【平成24年度の事業経過報告】

#### 1. 社会教育事業

◇渉外・会員拡大活動

①日韓トンネル計画の効果的な進め方を関係者にブリーフィングした。

②「参風142号」を参議院協会の会員約300名、および現役国会議員多数に配布した。

#### 2. 調査研究事業

◇トンネル工法の研究

①既存資料により湧水とその処理に関する研究をした。

②ヒアリングによる研究

昨年2月に発生した岡山県倉敷市のJX日鉱日石エネルギー水島製油所の海底トンネル事故について詳しい専門家を招き、事故原因や今後の対応などについてヒアリングした。

◇経済効果の研究

日韓トンネルの輸送力を輸送方式別(新幹線、カートレイン、コンテナ列車)に概算した。また国内と日韓間の航空・海運・陸運の旅客や物流の運賃を既存資料などから調べた。

#### 3. 国際協力事業

◇韓国での講演会

韓日協力委員会の招請で野澤太三会長がソウルで日韓トンネルの講演を行った。関心を持

つ韓国の政界・財界などの人士が聴講した。

◇韓国で関連団体を訪問

韓日議員連盟や韓日親善協会中央会などを訪問し、日韓トンネルに関する意見交換などを行った。

#### 4. 情報収集提供事業

◇ホームページの公開と維持

#### 5. 刊行紙の発行事業

◇日韓トンネル通信の発行

◇パンフレットの増刷

### 【平成25年度の事業計画案】

平成25年度の事業計画を審議し、以下のことが承認された。

#### 1. 社会教育事業

①日韓トンネル計画のブリーフィング

②会員拡大

③研究助成金募集事業への応募

#### 2. 調査、研究事業

①工法研究・・・湧水の少ない海底トンネルを掘るための研究をする

②経済効果の算定・・・日韓トンネルの費用便益比を算定する

③駅部の研究・・・保守や緊急時対応に必要なヤードの面積などの概算

#### 3. 国際協力事業

昨年度に引き続き、韓国など諸外国で開催される講演会やシンポジウムなどに参加し、日韓トンネルを含め海底トンネルに関する情報を提供・収集する

#### 4. 情報収集・提供事業

ホームページの更新

#### 5. 刊行紙の発行事業

・日韓トンネル通信(4回)

・パンフレットの増刷

## 講演

総会終了後、同会場で講演会があった。テーマは「日韓新時代のための提言/アジェンダ 21 と日韓トンネル」、講師は大東文化大学名誉教授で当会理事の永野慎一郎博士である。



永野慎一郎 当会理事  
大東文化大学名誉教授

講演用レポートはA4判9ページで、その構成は前文に続き、第1章：伊藤博文と安昌浩の対話（日韓の認識の違い）、第2章：相互依存の日韓関係、第3章：日韓首脳の交

流、第4章：日韓新時代のための提言、第5章：日韓トンネルの実現に向けて、の5つの章である。

誌面の都合で、第1章と第5章を掲載する。

### 第1章 伊藤博文と安昌浩の対話：日韓の認識の違い

伊藤博文韓国統監は就任後、後任総理大臣の人選に当たって、若き独立運動家安昌浩を周辺から推薦され、安昌浩と面談し、組閣を依頼したと伝えられている。安昌浩が1932年4月に治安維持法違反容疑で逮捕され、京城地方裁判所で審問を受けた時の審問記録によれば、以下のようなやり取りがあった。

**伊藤**：あなたは韓国三千里南北を巡回しながら講演しているが、その目的は何か？

**安**：貴下が50年前に日本全国各地で日本のためにやっていたそのような事業を私は現在韓国で韓国のためにしようとするのです。

**伊藤**：われわれ東洋人同士がお互いに力を合

わせてやっていかないと、白人たちからやられるのではないか。

**安**：東洋のことを言うならば、日本を頭と例えると、韓国は帽子であり、中国は体である。頭と帽子と体が一緒に着いているのではなく、お互いに信頼せず、不信を懐いているので、ばらばらになっている。

**伊藤**：信頼しないということは何ですか？

**安**：例えば、李東輝、姜允熙を何の罪もないのに何年も監獄に入れている。彼らは教育者である。教育者を拘禁することは教育するなということなので、韓国人が日本人の言うことを信じますか？

**伊藤**：初耳です。下部官吏がやっているようですので、すぐ釈放するようにしましょう。

**伊藤**：私の生涯の理想が3つある。第1に、日本を列強と角逐できる近代国家にすることであり、第2に、韓国をそのようにすることであり、第3に、清国をそのようにすることである。日本に対してはほとんどその目的を達成しているが、日本だけでは西洋勢力のアジア侵略を防ぐことが不可能なので、韓国と清国が日本と同じ位の力を持つ国家となり、お互いに仲の良い国にならなければならない。現在韓国の再建のために全力を傾注しているが、これが完成したら清国に行く。（この時伊藤は安の手を握りながら）あなたは私と一緒にこの大事業をやってみませんか。私が清国に行く時、私と一緒に行って3国の政治家が力を合わせて東洋の永久平和を構築しましょう。

**安**：3国の鼎立親善が東洋平和の基礎であるということには同感であり、貴下が貴下自身の祖国日本を革新したことは祝賀し、韓国を愛して助けようとするご好意には感謝す

---

る。しかし、貴下が韓国を助ける一番良い方法がある。それをご存知ですか？

**伊藤**：その方法とは何ですか？

**安**：日本を良くしたのは日本人である貴下自身であったように、韓国は韓国人によって革新させることです。もし明治維新を米国人が強制したとしたら、貴下は黙っていますか？ それだけでなく、維新そのものが不可能であったでしょう。

**伊藤**：・・・・・・・・

**安**：日本が不幸にも韓国と清国において信用をなくしました。これは日本にとって不幸であると同時に、3国にとっても不幸なことです。貴下が防止しようとする西洋勢力の侵入の原因となります。日本の圧政下にある韓国人は米国やロシアに助けを求めることとなります。日本が強国になることを願わない列強は韓国の要求を受け入れることとなります。そうすると、日本は列強の敵となり、東洋諸民族の敵となるのではないかと心配です。

貴下がもし友邦の賓客としてわが国に来たならば、私は毎日貴下を訪問し大先輩として先生としてご指導を仰ぎます。しかし、貴下は韓国を統治するために来た外国人であるため、私は貴下を訪問することをためらい、貴下と親しくなることを躊躇しています。

日本が韓国の独立を再三にわたり保障しており、日清戦争、日露戦争の二度の戦争も韓国の独立のためであるというので、韓国人は日本に感謝し、信じていました。しかし、両戦争で勝利すると、日本自ら韓国の主権を侵害した時、韓国人は日本を敵視しました。韓日両国の関係がこのような形で継続する間は韓国人が日本に協力することは望まない方が良いでしょう。また、貴下は清国を援助すると言うけれども、

それは韓国の独立を回復してから試してみてください。清国の4億の国民は日本が韓国を保護国としている限り、決して日本を信頼しないでしょう。3国にとって不幸な事態を貴下のような大政治家の手によって解決されることを望みます。

(第2章～第4章は誌面の都合上省略)

## 第5章 日韓トンネルの実現に向けて

日韓新時代アジェンダ21の中に、「日韓海底トンネル推進」が入っている。日韓交流史の中に日韓トンネルの必要性を日韓の有識者の共同プロジェクトによって認められた。

北九州地域と釜山・馬山地域をつなげる日韓海底トンネルの建設は、日韓間の人的流れと物流の拡大に貢献できるのみならず、島国である日本とアジア大陸をつなげるプロジェクトとなる。日韓の大衆交流の現象や日韓中の3か国交流の展望からもこの計画がもつ経済外的な「相互交流効果」を高く評価する。また、日韓海底トンネルは日韓両国のみならず、北朝鮮を通過し、中国東北地域の瀋陽までつながれば、日韓中3か国の北東アジア鉄道網がつながりシベリア鉄道を経由してヨーロッパまで到達できる。東京駅を出発してロンドンまで行くという夢の実現に向けて邁進するのみである。

日韓海底トンネルに関しては、竹下登首相をはじめ、歴代首相が言及し、韓国側も盧泰愚大統領以来、歴代大統領がトンネル建設に関心を示している。また、日韓トンネル研究会などの努力によって技術的な面での調査・研究が進行している。(誌面の都合上中略)

トンネル建設は両国首脳の最終的な決断が必要であり、必要な協定などの取り決めがな

---

さらなければならない。そのためには国民的な合意が必要であり、首脳間の信頼関係構築が重要である。英仏トンネルの場合、サッチャー英国首相とミッテラン仏大統領の二人の首脳が決断して合意し、条約を締結したように、2国を跨る国家的な大事業を達成するためには、時代を先読みできる強力なリーダーシップを持っている政治指導者に恵まなければならない。政治的な決断を導くための草の根交流が必要である。民間団体及び地方自治体レベルの交流の中で、人間同士の交流、心の交流を通じて日韓トンネルの建設の必要性を理解させ、国民の支持を広げていく方法も考えられる。

一方、日韓トンネル調査及び研究のための日韓専門家集団による共同プロジェクトの立ち上げを両国の関係官庁に提案し、政治家への働きかけが必要である。日韓海底トンネルは、21世紀の新しい日韓関係を構築する記念事業になる。相互理解の基本は道から始まる。心のトンネルを通すことから始まる。

現在、日韓中3国の経済交流は制限なく進展しており、相互交流効果は計り知れないものがある。その背景には中国経済の急成長による経済規模の拡大によって、中国だけでなく、東アジア地域の存在感が高まり、相互依存関係が深まっているという事実がある。

グローバリゼーションの深化に伴って、国境の概念は薄くなりつつある。既に「ヒト・モノ・情報・知識」が国境を自由自在に往来し、移動している。もはや経済資源は一国のみの所有物の時代ではない。国内経済が全国規模の経済ネットワークに組み込まれているように、経済圏規模へと拡大している。政策当局はこの流れへの対応に迫られることになる。

日韓トンネル建設は、単なる日本と韓国間の問題だけでなく、北朝鮮を巻き込んだ“平和への道”としてつながるのであれば大きな成果が期待できる。

北朝鮮はロシアのパイプライン同様、北朝鮮域内を列車が通過できれば、場所代として通過料が入り、国民生活の向上に役立つことは明確である。列車が釜山を出発して軍事境界線を越え、北朝鮮を通過できるようになれば、北朝鮮の開放へと導き、朝鮮半島の平和と安定に寄与するだけでなく、東アジア地域の平和と安定に資することになる。

日韓海底トンネル構想は、いまや夢からビジョンに、さらには具体的な実現に向けて走り出している。日韓間を結ぶことから始まり、朝鮮半島の平和と安定に寄与することになり、さらに東アジア共同体実現へと発展することになる。

日韓トンネルが実現できれば、東京駅から夢の列車に乗って下関・博多を經由し、海底トンネルを通過して釜山に渡り、釜山とソウルで一時的下車して、新鮮な魚料理や焼肉を食べて、再び列車に乗り込み、軍事境界線を越え、北朝鮮の山野を見物し、ピョンヤンで冷麺を食べて、シベリアを經由してロンドンまで行ってみたいと夢を見る。（終）

永野慎一郎博士によるレポート「日韓新時代のための提言/アジェンダ 21 と日韓トンネル」の全文をご希望の方は、切手 200 円分を同封の上、下記までお申し出ください。

〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-1-11  
信濃ビル 6 階  
特定非営利活動法人日韓トンネル研究会  
E-mail office@jk-tunnel.or.jp